

【ユニット】 導入クリニカル・クラークシップ2-1

【ユニットディレクター】

UD：柴崎 智美（医学教育学）

UD 補佐：森 茂久（医学教育学） 岡田 浩一（腎臓内科） 椎橋 実智男（情報技術支援推進センター） 辻 美隆（医学教育センター） 杉山 智江（医学教育センター） 大西 京子（医学教育センター） 齋藤 恵（医学教育センター） 大野 洋一（社会医学） 高橋 幸子（医療人育成センター・地域医学推進センター） 本橋 千恵美（社会医学） 米岡 裕美（教養教育） 石橋 敬一郎（医学教育学） 山田 泰子（医学教育センター） 吉益 晴夫（総セ 神経精神科） 岡田 洋平（総セ 泌尿器科） 黒崎 亮（国セ 婦人科腫瘍科） 金田 光平（医学教育センター） 杉浦 由佳（医学教育センター） 井上 直子（医学教育センター） 佐藤 寛栄（医学教育センター） 小池 啓子（医学教育センター） 松田 晃（医学教育学）

【一般的な目標】

外来、病棟、地域医療施設などの実際の臨床現場において、医師や他職種が行う医療行為や各診療科に特徴的な手技・検査の場に参加することを通して、診療の基本としての臨床推論・EBM・基本的な検査・治療ならびに医療面接に関する知識・技能・態度を身につける。

【具体的な目標】

1. 医療現場のルールを守り、医療人としての基本的態度・姿勢を行動として示すことができる。
2. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で（模擬）患者に接することができる。
3. 患者さんとの対応において留意すべき点を述べることができる。
4. 身体診察にあたって配慮すべき事柄を述べることができる。
5. バイタルサインを測定することができる。
6. 臨床現場で研修医、専攻医、臨床実習生（医学）を含む先輩医師に同行することを通して、医療現場での医師の行動や役割について理解したことを表現することができる。
7. 臨床現場での体験を振り返り、自分の課題を見だし今後の行動について記述することができる。
8. 典型的な症例の主訴や症候から病態生理や疾患頻度別に疾患を列挙することができる。
9. 典型的な症例について問題点を抽出・整理し、説明可能な病態生理を考え、推測した病態に基づいて（最も）適切な疾患名を推測することができる。
10. 地域の健康課題に関心を持ち、地域住民の健康上の課題（病気を含む）や地域医療の現状を把握し、自ら解決しようとする意欲を持つことができる。
11. 地域社会から求められる医師像について説明することができる。
12. 地域住民の暮らしの場として生活環境を整備することの意義について説明することができる。
13. 地域住民の暮らしを支える専門職連携を理解することができる。
14. 患者安全に関して医療現場で必要な基本的な事項について説明することができる。
15. 実習に休まず出席できるように、自らの体調管理、感染予防に努めることができる。
16. 医学生として倫理的、社会的に適切な態度で実習することができる。

【学習方法】

第1, 2クール、第3, 4クールのそれぞれいずれか4日間は診療科実習を行う。残りの4日間は、第1, 2クール目は臨床推論、第3, 4クール目は地域医療実習（彩の国 IPW 実習または地域体験実習の何れか）を行う。臨床推論実習は、一部3病院の臨床部門の医師が担当して実施する。詳細はオリエンテーションで説明する。

オリエンテーション時には、各自実習の目標を設定して、実習に取り組み、実習終了時に体験を振り返りログブック等に記載する。

I. 診療科実習

1. 診療科で4日間行う実習期間中に見学、体験を通して自ら学ぶ。
 - 1) 診療科特有の症候について、初診外来、病棟回診や医師の診察に参加することを通して学ぶ。(一部模擬症例も含む。)
 - 2) 診療科特有の検査、手技、手術に参加し、基本的診療手技の基本知識を身につける。
 - 3) バイタルサイン測定、病棟における医療安全の現場を体験し、その基本を理解する。
 - 4) 臨床現場で研修医、専攻医、臨床実習生(医学)を含む先輩医師に同行し、日々の医師の行動を記録する。
 - 5) 1日の実習が終了したら、WebClassの修学カルテを用いて、日々の振り返り、ループリック評価を記録し、体験を毎日振り返る。

II. 臨床推論実習

1. (模擬的な)症例について、臨床推論の技法を用いて診断のプロセスを体験する。
 - 1) 少人数のグループで、症候から問題点の抽出・整理、病態生理の理解、疾患名の推測を行う。
 - 2) 共用試験ガイドブックに掲載されている症候のポイントを用いて症候について学修する。
 - 3) 臨床部門の教員による講義、双方向性の演習、確認テストをおこなう。

III. 地域医療実習

以下の1. 彩の国 IPW 実習または2. 地域体験実習のいずれかを選択して、地域の保健医療福祉の場において実習する。

1. 彩の国 IPW 実習は、埼玉県内の保健医療福祉の場で、連携と協働を学ぶことを目的とした埼玉県立大学 IPW(Interprofessional Work)実習に参加する。埼玉県立大学保健医療福祉学部の理学療法学科、作業療法学科、社会福祉学科、健康開発学科学生(各学科1~2名ずつ計5~6人)でチーム形成、他領域の相互理解、課題解決のプロセスを体験する。事前に2回のオリエンテーション、4日間の現場での実習を行う。4日間の振り返りをまとめたレポートを作成する。
2. 地域体験実習は、地域の医療機関(診療所、病院)、福祉施設、小中学校において3~4日間現場の体験実習を行う。それぞれが設定した課題に対してレポートを作成する。

主要37症候*について内科診断学第3版を用いて学生自らが学ぶ。

実習中に学んだ症候、症例については、WebClassに記録する。

主要37症候*

発熱、全身倦怠感、食思(欲)不振、体重減少・体重増加、意識障害・失神、けいれん、めまい、浮腫、発疹、咳・痰、血痰・咯血、呼吸困難、胸痛、動悸、嚥下困難、腹痛、悪心・嘔吐、吐血、下血、便秘、下痢、黄疸、腹部膨満・腫瘤、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿、月経異常、不安・抑うつ、認知機能障害、頭痛、運動麻痺・筋力低下、歩行障害、感覚障害、腰背部痛、関節痛・関節腫脹

【予習】

内科診断学第3版を用いて、関連する症候を学習する(30分)。

質問等は、実習時間内に随時受け付ける。積極的に参加すること。

【評価方法】

本ユニットは良医になることを目指して、講義や実習に参加し、課題に取り組むことを求めている。そのため、医師を目指す医学生としてふさわしくない態度、行動があった場合には、評価の対象とせず不合格とする。また、本ユニットは、臨床実習の導入として位置づけられているため、原則すべての実習に参加することを評価の要件とする。

1. 【本ユニットは実習扱いであり、90%以上の出席が必要である。】

出席90%以上の者を評価対象とし、出席90%に達しないものは評価対象としない。欠席する場合には事前連絡と欠席届の提出が必須である。やむを得ない理由で実習を欠席した場合には、90%以上出席していた場合においても、それぞれの実習の参加が不十分と考えられる場合には、学年末(2月-3月)に補講を実施する。

なお、集合して実施するオリエンテーション等は時間を厳守することを求める。遅刻した場合には、評価に反映する。

実習オリエンテーションを欠席した場合には、実習前日までにオリエンテーションの動画を視聴する、実習要項を熟読するなど、教員からの指示に必ず対応すること。対応しない場合には、実習への参加は認めない。

2. 11月以降の実習はインフルエンザワクチンを接種していることが、実習参加の条件である。
3. 診療科実習では、WebClassの修学カルテを用いて、日々の振り返り、ルーブリック評価としての自己評価、教員による評価を行う。
4. 本ユニットでは全ての課題（提出物）の提出を求める。具体的には、学務課や実習担当者に提出するレポート、実習成果物等だけでなく、WebClassに登録する日々の振り返り（ログブック）、ルーブリック評価、レポート、ポストアンケート、健康チェック観察シートを含むすべての課題である。それぞれの課題毎に決められた提出期限内に未提出の場合には、催促は行わず未提出として扱い、評価点から減点する。指定された方法、内容と異なるものやレポート剽窃等アンプロフェッショナルな行動があった場合には出席・提出物を0点とする。
5. 評価は、出席、実習態度、推論課題（小テストを含む）、レポートを総合して100点満点で評価する。マイルストーン評価はレポート課題として評価する。合格に達しない場合には、補習後再評価を行う。

【教科書】

- ◆ 内科診断学第3版（医学書院）
- ◆ 医療面接技法とコミュニケーションのとり方 新・基礎臨床技能シリーズ，福島 統，メジカルビュー社
- ◆ 内科学第12版（朝倉書店）
- ◆ 診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学習・評価項目 医療系大学間共用試験実施評価機構
- ◆ 身体診察と基本手技 基礎臨床技能シリーズ5，倉本 秋，メジカルビュー社

【参考書】

- ◆ 臨床推論 EBMと病態生理から症例を考える 基礎臨床技能シリーズ4，編集：後藤英司，メジカルビュー社
- ◆ 診察ができる vol.1 身体診察 第1版 医療情報科学研究所 編
- ◆ 診察ができる vol.2 鑑別診断 第1版 医療情報科学研究所 編
- ◆ 症例からたどる鑑別診断 ロジカルシンキング，編集：後藤英司他，メジカルビュー社
- ◆ 考える技術 臨床的思考を分析する，スコット・スターン他著，日経BP出版センター
- ◆ 聞く技術 答えは患者の中にある第2版，マーク・ヘンダーソン他著，日経BPセンター
- ◆ 診療録の記載の仕方とプレゼンテーションのコツ 新・基礎臨床技能シリーズ，坂巻哲夫，メジカルビュー社
- ◆ 医療面接技法とコミュニケーションのとり方 新・基礎臨床技能シリーズ，福島 統，メジカルビュー社

【授業予定表】

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
Pre-CC 2-1 OR1	04月07日	(火)	3~4	オリエンテーション	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 OR2	06月23日	(火)	1~2	オリエンテーション（第1クール、第2クール）	UD, UD補佐, その他

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
Pre-CC 2-1 第1クール	06月30日	(火)	1~6	診療科実習/臨床推論	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第1クール	07月01日	(水)	1~6	診療科実習/臨床推論	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第1クール	07月02日	(木)	1~6	診療科実習/臨床推論	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第1クール	07月03日	(金)	1~6	診療科実習/臨床推論	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 OR3	07月06日	(月)	1~2	オリエンテーション (第2クール)	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第2クール	07月07日	(火)	1~6	臨床推論/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第2クール	07月08日	(水)	1~6	臨床推論/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第2クール	07月09日	(木)	1~6	臨床推論/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第2クール	07月10日	(金)	1~6	臨床推論/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 OR4	09月01日	(火)	1~2	第3, 4クールオリエンテーション	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 OR5	09月30日	(水)	3~6	地域医療実習オリエンテーション	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第3クール	10月05日	(月)	1~6	地域医療実習(生活環境デザイン演習)	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第3クール	10月06日	(火)	1~6	地域医療実習/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第3クール	10月07日	(水)	1~6	地域医療実習/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第3クール	10月08日	(木)	1~6	地域医療実習/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第3クール	10月09日	(金)	1~6	地域医療実習/診療科実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第4クール	10月13日	(火)	1~6	診療科実習/地域医療実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第4クール	10月14日	(水)	1~6	診療科実習/地域医療実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第4クール	10月15日	(木)	1~6	診療科実習/地域医療実習	UD, UD補佐, その他
Pre-CC 2-1 第4クール	10月16日	(金)	1~6	診療科実習/地域医療実習	UD, UD補佐, その他

【備考】

それぞれの実習の事前学習・課題は、年度初めまたは実習前に実施するオリエンテーションで詳細を説明する。

また、診療科実習では、診療科教員からフィードバックが行われる。臨床推論実習では、教員がその都度フィードバックを行う。

キーワード：臨床推論，病棟実習，医療面接，専門職連携教育

「UD, UD 補佐, その他」と記載してある時間は、以下の者が担当している。

柴崎（医学教育学），森（医学教育学），岡田（腎臓内科），椎橋（IRセンター），辻（医学教育C），石橋

(医学教育学), 山田 (医学教育 C), 杉山 (医学教育 C), 大西 (医学教育 C), 齋藤 (医学教育 C), 大野 (社会医学), 高橋 (医療人育成支援 C), 本橋 (社会医学), 米岡 (教養教育), 金田 (医学教育 C), 佐藤寛栄 (医学教育 C), 小池 (医学教育 C), 井上直 (医学教育 C), 吉益 (総セ神経精神科), 岡田 (総セ泌尿器科), 黒崎 (国セ婦人科腫瘍科), 荒木 (医学教育 C), 杉浦 (医学教育 C), その他

第3クールの埼玉県立大学との IPW 実習は彩の国連携力育成プロジェクトの彩の国連携科目に位置づけられている。また、第3クールの生活環境デザイン演習は、文部科学省ポストコロ時代の医療人材養成拠点形成事業の一部として実施している。